



外務省  
在カンボジア大使館二等書記官

たなべ かおり  
**田辺 香**  
Kaori Tanabe

\* Profile \*

- 平成13年・外務省入省(外務専門職員)
- 平成14年・カンボジア赴任(語学研修)  
カンボジアの大学に通いながら、ホームステイ
- 平成16年・在カンボジア大使館三等書記官  
カンボジア政治情勢のフォロー、広報文化交流政策及び事業の企画・立案及び実施
- 平成21年・外務省大臣官房総務課事務官  
法令遵守関係業務
- 平成23年・～第一子出産  
産前産後休暇、育児休業
- 平成24年・外務省南東アジア第一課カンボジア担当  
日カンボジア関係全般に関わる業務
- 平成25年・～第二子出産  
産前産後休暇、育児休業
- 平成27年・外務省南東アジア第一課カンボジア担当  
日カンボジア関係全般に関わる業務
- ・内閣府情報保全監察室主査  
法令遵守関係業務
- 平成28年・在カンボジア大使館二等書記官  
～現在 カンボジアにおける広報文化交流政策及び  
事業の企画・立案及び実施

## 海外勤務に子供を

### 外務省員にとっての海外勤務

私自身は、外務省でカンボジア語を専門とする職員で、夫婦ともに外務省に勤めています。外務省では約半数の職員が海外にある大使館や総領事館などで勤務しており、特に私自身は省内でも数少ないカンボジア語専門の職員であるため、何年かに一度のカンボジア勤務は事実上必須であり、かつ自分自身もいずれカンボジアに戻り、これまでの経験を活かして仕事をしたいという気持ちがありました。

二人の子を育てる中で、自分達夫婦及び子どもの人生を考えたときに、どのタイミングで育児を海外で行うのがベストか、夫とも議論し、第一子が小学校に入学するまでに、子ども達に日本とは違った環境で生活させたいという結論になり、人事課にその希望を提出しました。

### カンボジアへの子連れ赴任

幸いなことにその希望が叶い、平成28年5月に、子ども2名(当時2歳と5歳)を伴ってカンボジアに赴任することになりました。当初は、子連れ単身赴任でしたが、その半年後に、夫もカンボジアへの赴任が叶い、現在は在カンボジア日本国大使館で一緒に勤務しています。

カンボジアへの赴任当初、子ども達を幼稚園もベビーシッターも、知らない人ばかりの中で、かつ日本語も通じない環境に放り込んでしまい、子ども達が戸惑う様子を見て心が痛みましたが、少し

## 同伴してみて

ずつそうした環境に慣れ、今ではのびのびと成長している様子を見て、逆に励まされる思いがしています。

### 自分自身にとっての カンボジア勤務

私にとってカンボジアは20代の半分以上を過ごし、かつ様々なことを教えてくれた場所です。そして、仕事の上では、自分の語学や社会に関する知見を活かしながら仕事できるホームグラウンドとも言えます。私の担当業務は、「日本の友だちの輪」を広げるための「きっかけ」づくりとして、日本を知ってもらうための情報発信や事業を実施することですが、まさに自分のホームグラウンドで、そうした仕事ができることを嬉しく思っています。

仕事上の満足度は高いものの、勤務体系上、子どもと過ごす時間が少なくなりがちなので、その時間をもう少し増やせないか、そして一緒にいる時間の質をどう上げていくかが今後の課題です。次に別の赴任地に異動する際に、家族みんなで良い思い出ができたと思えるようにしていきたいです。



### 1日 のタイムスケジュール例

- 5:30 起床
- 7:00 子どもの学校送り
- 8:00 出勤
- 12:00 昼食(メディアや広報・文化関係者とのネットワーキングランチが多い)
- 13:30 午後の業務
- 14:30 (子どもの迎え:ベビーシッターに任せている)
- 19:00 帰宅  
夕食、子どもとの時間(宿題の確認、一日の様子を聞く、遊ぶ)
- 20:30 子どもの寝かしつけ
- 21:00 残務処理など
- 23:00 就寝

### 女性職員へのメッセージ

私自身は、どんな職場でも、女性ということだけではなく、個々人の個性や能力が、職場を強くすると信じています。特に国家公務員なら、日本をより良い国にしていく上で、さまざまな個性が必要なのではないでしょうか。

